No.26 通巻26号 2017年6月発行

HOSEI University +QA 26

［プラス・キュー・エー］
大学評価室ニューズレター

Quality Assurance for HOSEI

法政大学総長室付大学評価室
www.hosei.ac.jp/hyoka

巻頭メッセージ

第３期評価に向かって
法政大学総長　田中優子 …… P.1
第３期認証評価における大学評価システムについて …… P.2~3
新大学評価システムの概要
シリーズ「学士力の質保証を考える」対談（第13回）
フィールドとの関わりが「実践知」を育む
－すべての人の健康で幸福な暮らし＝Well-being（ウェルビーイング）の実現－
大学評価室長　川上忠重　×　現代福祉学部長　岩崎晋也 …… P.3~4
2016年度　保護者アンケート結果の結果から …… P.5
活動報告、編集後記 …… P.6

Message

第３期評価に向かって

法政大学総長
田中 優子

2017年4月、新しい総長理事会体制が発足しました。この3年間、HOSEI2030の策定とアクションプランづくりを進めてきましたが、いよいよ今年度から具体的な実施プロセスに入ります。そのためにHOSEI2030推進本部を設置しました。今後は推進本部で全体の進捗を把握しつつ、アクションプランの実現につとめます。

本学は2019年度、第3期評価基準によって認証評価を受審します。第3期の評価では、学生の学習成果(ラーニング･アウトカム)を含め、大学の諸活動がどのような意図で導入され（インプット）、どのように実施され（プロセス）、そしてどのような結果や成果を導いているか（アウトカム）、そのバランスが重視されます。それぞれの授業の方法だけではなく、大学として学生の学習を活性化し、効果的に教育をする取り組みを行っているか否かが問われるでしょう。

2018年度から100分授業が導入されます。大教室授業においても、学生が自ら書き、話し、議論する方法を取り入れるよう促していきます。サマーセッションやスプリングセッションも可能になります。フィールドワークも実施しやすくなります。反転授業や学びの振り返りでも活用できるよう、オンデマンドの導入も検討しています。これらはすでに多くの教師によって実施されています。今後の課題は全学的な取り組みです。

法政大学の特徴は、個々の学部における優れた教職員たちの先進的な取り組みです。それを自己点検･評価活動によって常に明らかにし、全学的な内部質保証に結びつけていくことが、本学の教育の質を高める方法であると考えています。

TOPIC 1

第3期認証評価における大学評価システムについて

新大学評価システムの概要

公益財団法人大学基準協会は、2016年10月に2018（平成30）年度以降の第3期認証評価における大学評価システムを公表し、2017年4月に大学評価実務説明会を開催しました。ここでは、次期大学評価システムの概要について報告します。

1. 大学評価システムの変遷

第1期認証評価 ：「自己点検･評価の実質化を目指す評価」

第2期認証評価 ：「内部質保証システムの構築を目指す評価」

↓

第3期認証評価 ：「内部質保証システムの有効性に着目する評価」

第2期より「内部質保証」が重視され、各大学には内部質保証システムの構築が求められました。第3期では、各大学で内部質保証システムが構築されていることを前提に、それがより**有効なものとして機能しているか**が重視されます。

2. 第3期の変更点とポイント

（1）大学基準の改定

大学基準協会の定める第2期大学基準と第３期大学基準の主な変更点は以下のとおりです。

①基準２「内部質保証」の位置づけ(基準10から基準２へ)が変更され、より内部質保証を重視することが明確化。

②基準４が「教育課程･学習成果」に名称変更され、下位4区分が1つにまとめられ、名称にもあるように「学習成果」の重視が明確化。

③教育プログラムの一体性(教育課程･学習成果、学生の受け入れ)が重視され、それらを確認した上で教員組織のあり方を確認するため、「教員･教員組織」が基準3から基準6へ変更。

④基準9「管理運営･財務」は教職員の一体的な大学運営という観点から、基準10「大学運営･財務」に名称変更。

具体的な大学基準の構成は下図を参照。

※大学基準とは… 大学が自己点検･評価を行う際に必要な項目を定めた基準。10の基準があり、基準ごとに設定された「点検･評価項目」に基づき自己点検･評価を行う必要がある。

第２期大学基準	
1	理念・目的
2	教育研究組織
3	教員・教員組織
4	教育内容・方法・成果 ①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 ②教育課程・教育内容 ③教育方法 ④成果
5	学生の受け入れ
6	学生支援
7	教育研究等環境
8	社会連携・社会貢献
9	管理運営・財務 ①管理運営　②財務
10	内部質保証

第３期大学基準	
1	理念・目的
2	内部質保証
3	教育研究組織
4	教育課程・学習成果
5	学生の受け入れ
6	教員・教員組織
7	学生支援
8	教育研究等環境
9	社会連携・社会貢献
10	大学運営・財務 ①大学運営　②財務

(2) 内部質保証の考え方の明確化

内部質保証システムの有効性を高めるため、各大学の状況に対応した「内部質保証のための全学的な方針および手続」の設定が求められました。

(3) 全学的観点による評価を通じた内部質保証システム機能化の促進

教学マネジメントの一環としての「全学的観点による自己点検・評価」の実施。各学部・研究科の自己点検・評価を踏まえたうえで、大学として全学の現状を総括し、優れた点や問題点を整理し、将来に向けた方策等をまとめることが求められました。

(4) 大学の課題に焦点化した評価

「基礎要件シート」導入による基礎要件（法令順守事項等）確認作業の効率化が行われ、それによる、理念・目的、方針に基づく各大学独自の活動への焦点化が行われました。

大学評価室では、次回の認証評価申請に向け、今後も情報発信を行うとともに、新大学評価システムに対応するため準備作業を進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

TOPIC 2

シリーズ「学士力の質保証を考える」対談（第13回）

フィールドとの関わりが「実践知」を育む

—すべての人の健康で幸福な暮らし=Well-being（ウェルビーイング）の実現—

川上 忠重［大学評価室長］× 岩崎 晋也［現代福祉学部長］

各学部における教育の質保証に向けた取り組み・成果について、大学評価室長と学部長との対談形式でお伝えするシリーズ。今回は、現代福祉学部の岩崎晋也学部長にお話を伺いました。

岩崎現代福祉学部長

川上　現代福祉学部は2000年に開設しましたが、まず学部設置の経緯と目的について教えてください。

岩崎　新設学部の検討時に、選択肢の一つとして「福祉系の学部」というのがありました。ただ、従来の福祉というと、どうしても、安定したスキームの中からこぼれてしまった「社会的弱者」と言われる方々への支援が中心になってしまう。それも重要なのですが、現代はその「安定したスキームそのもの」が崩れかけていて、そうした人達だけではなくて、全ての人達が大きな生活上のリスクを抱えています。そこで、私達は「すべての人の健康で幸福な暮らし=Well-being（ウェルビーイング）」を学部のコンセプトにしました。社会福祉的な生活支援も重要なのですが、それだけではなくて、心の健康に関わる臨床心理や、地域コミュニティをどう活性化していくか、この3つの要素が密接に絡まっています。そこで、これらの事を総合的にやる学部ということで、まずは1学部1学科として発足させました。

川上大学評価室長

川上　Well-beingという現代福祉学部の理念ですと、広がり具合が色々あると思います。この教育理念への展開についてお話頂けますでしょうか。

岩崎　2010年に「福祉コミュニティ学科」と「臨床心理学科」の2学科へと再編しましたが、学部自体の基本的な理念は変わってはいません。学内だけの座学だけでは終わらなくて、フィールドに出て行って問題や課題に直面した後で、大学に戻って勉強したり、行ったり来たりをしながら学びを深めていくというのが本学部の基本的な学びのスタイルです。その過程で実際にウェルビーイングを実現するには具体的にどのようにしていけばいいのか考える。抽象的な理念だけだと「そうかな」で終わってしまうのですが、実際に困っている人の生活の中でどう実現するのか学ぶということを重視しています。

学生満足度が7年連続学部トップ

川上　現代福祉学部は新入生アンケート、卒業生アンケートとも非常に学生満足度が高く、ここ7年ずっと学部トップの満足度を維持していらっしゃるのですが、教員側として特に留意されている点はどのようなことがあるでしょうか。

岩崎　一番重要なのは私達教員がなるべく学生と密に関われる時間を多くしようとしていることです。基礎演習を今年は専任だけで担当しています。導入教育はとても重要ですし、専門演習も基本的には臨床心理学科は必修ですし、福祉コミュニティ学科は来年から必修になります。それとは別に3年生で実習のクラスもありますから、1人の学生が色々な教員と密に関わる場面が多くあります。あとは実習などで学外のフィールドに出たときに自分が学んだという手ごたえを感じられるように教育しています。確かに私達も送り出すのは大変なのですが、実際に達成感を感じられること、「授業で学んだことが実際にこのように実践されているんだ」というように、自分の体験に裏打ちされた言葉で学んだことを喋れるような学習機会が豊富にあることが、満足度の高さに繋がっているのだと思います。

フィールドワークと大学の往復が「実践知」を育む

川上　そのフィールドワークに出た時の演習ごとの議論について教えてください。例えば教員と学生間の情報共有はどのようにされているのか、それがどう役立っているのでしょうか。

岩崎　事前学習として、学生自身に地域の中にある社会資源や基本的な制度を真剣に調べてもらいます。あとは事例集があるのですが、事例集を読み解く中で、自分だったらどういう支援計画を立てるのか机上演習をします。そして、実際に実習に行った後は自分が実習で遭遇した事例を持ち帰ってくるので、実習の中での「気づき」を報告してもらって、皆で検討する。事例にどのように対応したか話し合いをしたり、場合によってはロールプレイで困った場面を再現したり。その過程で実習時は分からなかった新たな気づきを学べる、といった学習方法をとっています。

川上　やはり実際のフィールドワークに行った時の「気づき」を踏まえての、学生同士のディスカッションが、学生にとっても教員にとっても成果が大きいということですね。

岩崎　大学というのはある意味では理念や姿勢を教えます。例えば利用者さんをエンパワメント（支援）する、その人の本来持っている力を引き出すような支援をしましょうというのはどの教科書にも書いてあるのですが、では実際にAさんBさんを目の前にして、どうエンパワメントするのかというのは、教科書には書かれていない。AさんBさんの条件が分からない訳ですから。実習中に自分の中でひっかかるところがあって、後で振り返った時に、あそこでエンパワメントできたのではないか、あれがエンパワメントするということではないのか、抽象的な概念を自分の中に落としこめるような学びというのが「実践知」だと思います。そういうことができる工夫や仕組みを本学部が持っているところがとても大きいと思います。

多岐に亘る進路・就職先

川上　「実践知」を育む学部として、出口のキャリア支援の部分で気をつけていらっしゃることについて教えて頂けますか。

岩崎　現代福祉学部は元々広いコンセプトでやっていたので、従来型の福祉施設であったり、福祉系の公務員ということを進路として言ったりしていますが、それだけではなくて、福祉マインドを持った人達に民間企業でも働いてもらえれば、やれることがあるのではないかと考えています。もちろん臨床心理は大学院というまた別の方向性があります。

　私は最初から「福祉をやりたい」と言ってきた学生に対しては、一回幅広い視野で見るようにと指導しています。もちろん最終的に福祉系の施設や福祉職に就くのもかまわないのですが、最初から自分の選択肢を狭くしないで、視野を広げるということはとても大切だと思っています。あと地方から出てきている学生の中には、地元に戻って公務員として地域づくりに貢献したいという希望を持っている人もいるので、そうした面でも支援しています。

川上　ウェルビーイングの実現に向けた学部長として学生に向けたメッセージをお願いします。

岩崎　現代福祉は、学内だけで学びが完結しないということは明らかです。本学部の教育プログラムの中では、色々な学生を国内外の色々なフィールドに結びつける仕掛けを沢山持っていますが、それはやはり学生の皆さんが主体的にやろうという意欲が無いとせっかくの仕掛けも生きてきません。色々な人達に会うということは、自分の人間性を広げ、将来必ず財産になると思いますので、是非色々なことに積極的にチャレンジしてほしいと思います。

川上　現代福祉学部の優れた取り組みがよく分かりました。本日はありがとうございました。

TOPIC 3

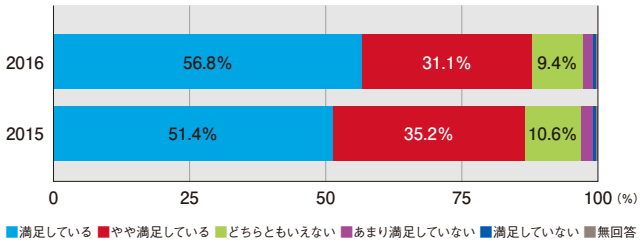
2016年度　保護者アンケートの結果から
経年変化を中心に

大学評価室では、2016年11月から12月にかけて学部学生のうち、4年生の保護者約6,000名を対象にアンケート調査を実施しました。今回は1,281名(回収率21.4%)の保護者の皆様からご回答を頂きました。その結果を、経年変化を中心に抜粋して紹介します。

法政大学への満足度は87.9%（前年比1.3ポイント上昇）、入学学部への満足度は78.6%（前年比1.7ポイント上昇）
本学が今後充実すべき点として、「就職支援」・「就職に関する情報の発信強化」をはじめ、「英語教育」「専門教育」「教養教育」「キャリア教育」に高い関心。約7割が「法政大学を勧めたい」と回答。

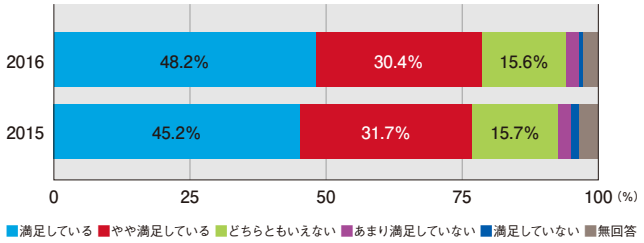
Ⅰ 法政大学および入学学部に対する満足度

図1　法政大学に対する満足度



法政大学に対する満足度（「満足している」＋「やや満足している」の割合。以下同様に表記）は87.9%（前年比+1.3ポイント）となりました。

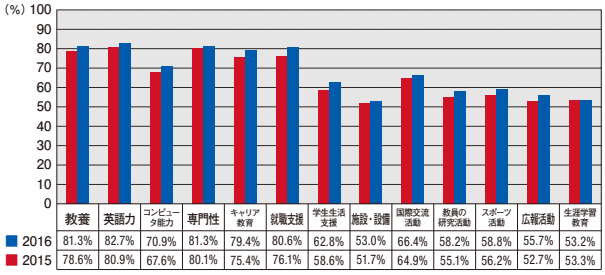
図2　学部に対する満足度



入学学部に対する満足度は78.6%（前年比+1.7ポイント）となりました。「満足している」の比率は前年と比較して3.0ポイント上昇しています。

Ⅱ 本学が今後さらに充実すべき点

図3　本学が今後さらに充実すべき点

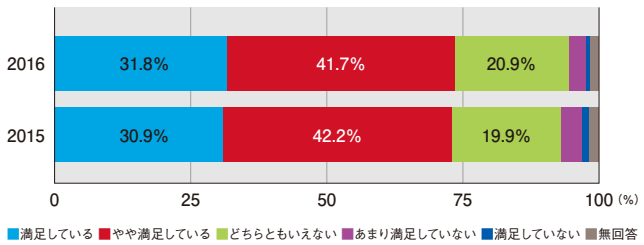


	教養	英語力	コンピュータ能力	専門性	キャリア教育	就職支援	学生生活支援	施設・設備	国際交流活動	教員の研究活動	スポーツ活動	広報活動	生涯学習教育
2016	81.3%	82.7%	70.9%	81.3%	79.4%	80.6%	62.8%	53.0%	66.4%	58.2%	58.8%	55.7%	53.2%
2015	78.6%	80.9%	67.6%	80.1%	75.4%	76.1%	58.6%	51.7%	64.9%	55.1%	56.2%	52.7%	53.3%

特に「就職支援」「英語教育」「専門教育」「教養教育」「キャリア教育」の充実が強く求められています。

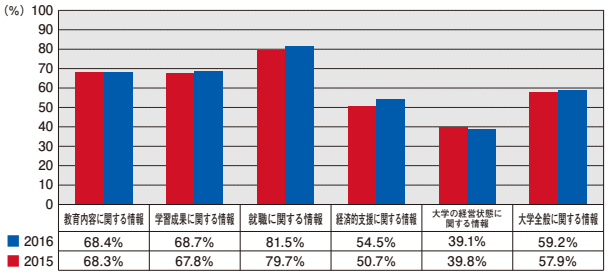
Ⅲ 情報提供について

図4　情報提供の満足度



前年と同様に7割(73.5%)の方が満足と回答しています。

図5　さらなる発信を望む情報

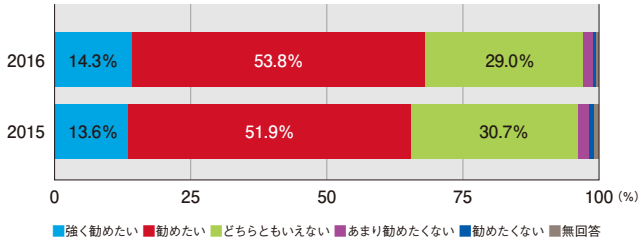


	教育内容に関する情報	学習成果に関する情報	就職に関する情報	経済的支援に関する情報	大学の経営状態に関する情報	大学全般に関する情報
2016	68.4%	68.7%	81.5%	54.5%	39.1%	59.2%
2015	68.3%	67.8%	79.7%	50.7%	39.8%	57.9%

「就職に関する情報」を求める声が8割を超え、「教育内容」「学習成果」に関する情報についても6割を超えています。

Ⅳ 法政大学を勧めたいと思うか

図6　法政大学を勧めたいか



7割（68.1%）の方が法政大学を勧めたいと回答しています。
アンケート調査の詳細については、大学評価室までお問い合わせください。

活動報告

2016年度　第2回自己点検懇談会(学部)を開催しました。

◆日　時：2017年3月2日(木)　13:00 ～ 15:30
◆場　所：市ヶ谷キャンパス　ボアソナードタワー 26階　A会議室

学部（教育開発支援機構含む）を対象とした2016年度 第2回自己点検懇談会を開催しました。

今回は「学生の学修成果をどう把握するか ―各学部の改訂版ディプロマポリシーをふまえて―」をテーマに行われ、前半は児美川大学評価室長の発題の後、中釜教育開発支援機構長から「成績評価とGPA制度」に関して、3学部から各学部の取り組み状況を報告いただきました。後半は3グループに分かれ、グループディスカッションが行われました。

グループディスカッションの様子

第6回　自己点検懇談会(事務部門)を開催しました。

◆日　時：2017年3月14日(火)　13:00 ～ 15:30
◆場　所：市ヶ谷キャンパス　富士見坂校舎3階　F309教室（遠隔会議メイン会場）
多摩キャンパス　総合棟4階会議室C
小金井キャンパス　管理棟3階会議室

事務職員を対象とした自己点検懇談会を開催しました。今回は「職員の立場からどう学生支援を進めるか―教職協働も意識して―」をテーマに、①受入れ留学生の支援、②学生の学習・生活支援、③学生のキャリア支援について、3名の職員から発表いただきました。当日は全学内役員をはじめ、3キャンパスで80名を超える参加者がありました。

発表の様子

2017年度　自己点検・評価活動に関する説明会を開催しました。

◆日　時：2017年3月23日(木)　10:00 ～ 11:00
◆場　所：市ヶ谷キャンパス　富士見坂校舎3階　F309教室

学部長・研究科長等、自己点検運用単位の部局長を対象とした2017年度自己点検・評価活動に関する説明会を開催し、事務局より、2017年度自己点検・評価活動の概要や自己点検書類の作成方法、スケジュール等の説明を行いました。

2017年度　第1回自己点検委員会を開催しました。

◆日　時：2017年4月27日(木)　13:00 ～ 13:30
◆場　所：市ヶ谷キャンパス　ボアソナードタワー 26階　A会議室

2017年度第１回目となる自己点検委員会が開催されました。廣瀬克哉自己点検委員会委員長より、2017年度自己点検・評価活動に関わる基本方針や規程の改正等について説明が行われ、審議・承認されました。あわせて、大学基準協会から送付された改善報告書検討結果について報告が行われました。

第20回大学評価室セミナーを開催しました。

◆日　時：2017年4月27日(木)　13:30 ～ 15:00
◆場　所：市ヶ谷キャンパス　ボアソナードタワー 26階　A会議室

今回は帝京大学学修・研究支援センター長・教授の土持ゲーリー法一氏をお招きし、「学位授与の説明責任としての学生の学習成果の把握とアセスメント～ICEルーブリックと卒業ポートフォリオの活用～」をテーマにご講演いただきました。重要な課題である学習成果の把握・アセスメントについて、具体的な事例紹介をはじめ、多岐にわたり貴重なお話をお伺いすることができました。本学関係者にとって大変有益なものとなりました。

土持氏の講演の様子

今後の予定

6 ～ 7月　新入生アンケートの実施(2017年4月入学の学部生・大学院生対象)
7 ～ 9月　法政卒業生大学評価アンケートの実施(卒業後3年及び10年を経過した学部卒業生対象)

編集後記

新年度が始まってから早一か月半が過ぎて、さわやかな初夏の風を楽しむころとなりました。新人の方、異動された方も新しい職場にだいぶ慣れてきたころでしょうか。また、花粉症に悩まされ、やっとマスクを外せて清々している方もいらっしゃるのではないでしょうか。最近、気温の寒暖差により体調が崩しやすくなったと感じており、体力づくりのためスイミングを始めようかなと思っているところです。(加藤)

HOSEI University +QA
Quality Assurance for HOSEI
2017年6月発行(通巻26号)
大学評価室ニューズレター No.26
www.hosei.ac.jp/hyoka

法政大学
総長室付大学評価室
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
Tel. 03-3264-9903
Fax.03-3264-4077
e-mail: hyoka@hosei.ac.jp

Japan University Accreditation Association
UNIVERSITY ACCREDITED 2013.4～2020.3 法政大学
LAW SCHOOL ACCREDITED 2013.4～2018.3 法科大学院
BUSINESS SCHOOL ACCREDITED 2014.4～2019.3 IM専攻
再生紙使用 2016.6/1,800